

音楽学研究

2 units 3rd-year(1st semester)

Keiichi Kataoka · PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES

Target) 当授業では、主として日本の伝統音楽について民族音楽学的視点から講義する。ただそれと共に、(日本以外の)世界の諸民族の音楽についても可能な範囲で並行的に言及する。この授業を通じてわが国の伝統音楽についての造詣が深められると共に、現代の音楽文化を各自が再考するためのきっかけのひとつが与えられれば、私としては幸いであると考えている。

Outline) 民族音楽学的観点に立った日本の伝統音楽並びに世界の諸民族の音楽についての講義(日本の伝統音楽の講義に重点を置く。)

Keyword) 日本伝統音楽, 世界の諸民族の音楽, 音楽学, 日本の古代から中世にかけての音楽, 音楽鑑賞

Relational Lecture) “音楽学ゼミナールⅠ”(0.5), “音楽学ゼミナールⅡ”(0.5)

Notice) 当授業は講義形式なので、受講者は受け身的になりがちであるが、できるだけ主体的かつ積極的な姿勢で授業に取り組んでほしい。なお、先行科目は特定したくないので記入しておらず、関連科目もあくまでも参考程度なので、それに束縛される必要はない。

Goal) 日本の伝統音楽並びに日本以外の世界の諸民族の音楽についての造詣を深め、多様な音楽文化に対する認識を広める。

Schedule)

1. 上記に述べた内容を具現するために、講義的説明に加えて、A.V. 機器を使用して鑑賞も行う。
2. 1-3 週目 授業の趣旨説明と、日本の伝統音楽研究のための文献類の紹介。
3. 4-6 週目 古代から現代に至る日本伝統音楽の歴史の概説。
4. 7-10 週目 古代の日本の音楽。
5. 11-14 週目 中世の日本の音楽。
6. 15 週目 総括授業。これまでの授業内容全体について意見交換等を行う。
7. 近世以降の日本の音楽については、時間的な関係で細かい言及はできない。なお上述したように、同授業では原則として、毎回並行して(日本以外の)世界の諸民族の音楽についても言及する。

Evaluation Criteria) 試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。

Re-evaluation) 行わない。

Textbook) この授業では教科書等は使用しない。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218466>

Contact)

⇒ Kataoka (201, +81-88-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL
(Office Hour: 前期 木曜日の昼休み)

Note) 平成 23 年度は、前期・火曜・1-2 講時に開講。